

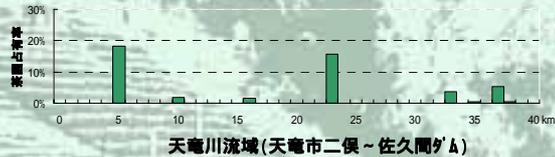
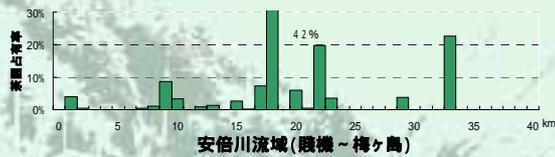
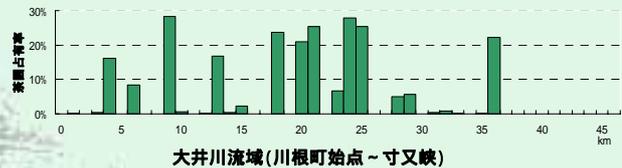
大井川中流域における茶園景観の特徴と評価

[研究のねらい]

- ・大井川中流域に位置する川根地域は、全国的に有名な高品質茶の生産地であるとともに、豊かな自然環境やSLなどの観光資源に恵まれた県下でも有数の観光地であり、地域の茶園は風光明媚な景観の中で重要な役割を果たしている。
- ・しかし、近年、担い手の減少等に伴い耕作放棄茶園が地域各所に散見され、地域住民の観光資源としての茶園景観への意識も希薄化していると推察される。
- ・そこで、本研究では、当地域の茶園景観を観光客の目線からとらえ、その特徴と景観に対する住民意識を明らかにするとともに、得られた成果を茶を主体とした地域振興に役立てる。

[研究の成果]

- ・大井川流域(川根地域)における茶園景観の特徴として、茶園の出現頻度が高いこと、河川沿岸に地形に沿った緩傾斜茶園が多いことや連続性があることなどがあげられ、その成立要件として、緩やかな地形、産地の立地状況、河川の蛇行が関係していると考えられる。
- ・優良茶園景観のうち、山間部の景観や丘陵から見下ろせる景観の選好度が高い。
- ・地域住民では「開放感がある」「整然としている」、地域外住民では「静かな」「自然が豊かな」という印象を強く与える景観の選好度が高くなる。
- ・好ましくない景観構成要素として、電線・電柱、住宅建造物などの人工物が指摘され、防霜ファンについては、来訪者にとっては景観の障害物として景観上気になっていないと推察される。



車窓景観における茶園占有率

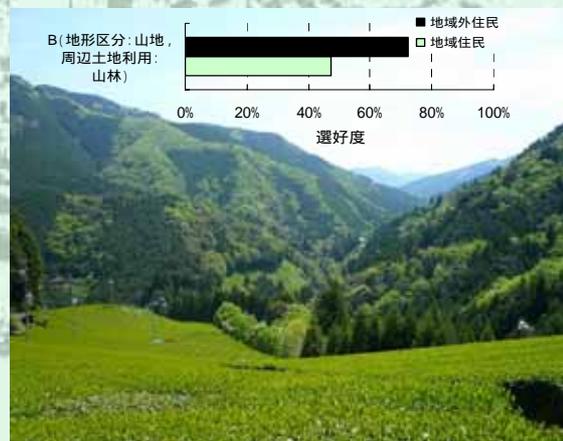
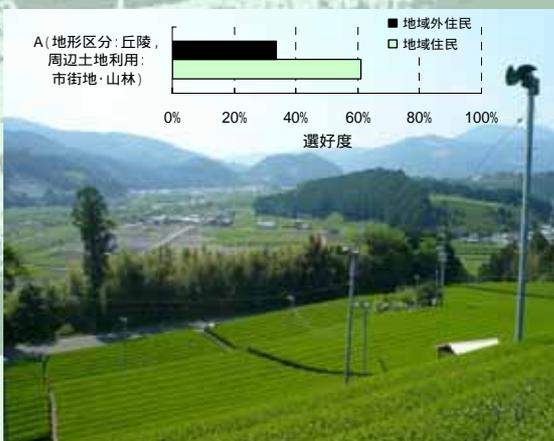


写真:評価の高かった茶園景観(A, B)